

櫻原 健



昭和56年入省
（直近5部署）

平成28年4月 独）日本労働政策研究・研修機構 労働大学校 准教授
平成30年4月 韮崎公共職業安定所 所長
平成31年4月 富士吉田公共職業安定所 所長
令和2年4月 山梨労働局総務部総務課 総務課長
令和4年4月 甲府公共職業安定所 所長
令和5年3月 定年退職
令和5年4月 現職に再任用

これまでの勤務を振り返り印象に残っていることはどのようなことですか？

【ハローワーク業務】

ハローワークには、職業相談、雇用保険、事業主指導、求人受理・充足指導業務、庶務業務など様々なしごとがありますが、私にとっては、「職業相談」個別面談の奥深さや醍醐味を知ることができたことが一番の思い出でもあり、強く印象に残っています。

職業相談では、労働市場情報やキャリアコンサルティングの知識・技法も大切ですが、相談者の気持ちにしっかり寄り添うこと、相談の過程でその人が持っている強みを最大限引き出すよう相談してきました。「相談して良かった」と多くの人に言ってもらえたことは、私の喜びでもありました。

（こころ）

職業相談とは、「人の人生を左右する相談である」ことを肝に銘じ、「一期一会」の気持ちで臨みます。

労働大学校で勤務されていますが、労働大学校とはどのような学校です？

全国の労働行政職員（労働局・労働基準監督署・公共職業安定所）が受講する中央研修を実施している機関です。正しくは、独立行政法人労働政策研究・研修機構 労働大学校（埼玉県朝霞市）といます。

新規採用職員から署所長までの階層別研修や、各行政系統別の基礎・上級・専門研修まで、幅広い研修を、オンライン・集合（宿泊）方式で実施しています。



労働大学校ではどのような仕事をしましたか？

労働大学校では、主に職業相談（キャリアコンサルティング）手法、求人事業所サービス手法、各種事業主指導手法（障害者雇用・高年齢者雇用・外国人雇用など）の研修カリキュラムやシラバスの策定、また、教官として講義や実技（演習）指導を行っていました。

<労働大学校へ出向するきっかけ>

入省後、実務経験を積む中で、さらなる専門性を身につける必要性を感じ、今でいう「リスキリング（学び直し）」でしょうか、産業カウンセラーやキャリアコンサルティングを学び資格取得、実際の窓口相談で実践するとともに、社会人として大学で「心理と教育」を学び直しました。そのような中で、労働大学校への出向のお話をいただき、勤務することとなりました。

研修生に対しては、相談経験から得られた知見と学んだ理論を基に、「わかりやすく、事例付きで、現場で使える」研修となるよう取り組んできましたが、全国の行政職員の育成・指導という大きな仕事にも携われたことは、私の行政歴の中でも、かけがえのない経験であり宝物になっています。



仕事をする上で、大切にしてきたことはどのようなことですか？

どの仕事に対しても「最善」を尽くし楽しむこと。
仕事に興味を持ち、感じ、考えること、学び、工夫
すること、チャレンジしていくこと。

山梨労働局の魅力を教えてください。

【働きやすさ・仕事の楽しさ】 『労働行政っていいね』

定年退職後の再雇用（任用）制度によって、引き続き山梨労働局に勤務していますが、長い行政経験を振り返ってみると、大きな失敗をしたこともありましたが、危機の度に、時の上司・同僚・後輩に助けてもらえたことを、今でもはっきりと覚えています。

働くということは組織人になることでもありますが、一緒に働く仲間や組織の風土は大切です。私たち労働行政は、多くの人と接する仕事ということもあり、人の痛みや思いを感じ取る力が自然と身につくからでしょうか、私には、とても雰囲気の良い職場だと感じています。また、なにより自分なりの工夫が絶えずできる「仕事」としての魅力も大きいと思います。

【住みやすさ・生活しやすさ】 『山梨っていいね』

基本的に異動は県内のみで、住む場所によりますが、転居の必要はなく通勤可能です。また、富士山から南アルプス、八ヶ岳などの大自然が身近にあり、東京にも1時間半ほどと近く、とても住みやすく恵まれた環境だと思います。

葡萄や桃などの旬な果実、ワインも楽しめます・・・

山歩き・ジョギング・自転車・バイク・車でのドライブも・・・最高ですよ

受験者へメッセージをお願いします。

労働行政といっても幅が広く、学ぶことは相当たくさんあり、40年やっても飽きることはありません。

ハローワークにおける「職業相談」ひとつをとっても、その専門性は深く、一人一人の人生の岐路に立ち会い、悩み・希望・目標・達成まで分かち合いますので、やりがいや達成感を直接かみしめることができます。

また、労働局の仕事では、労働市場や労働問題をしっかり捉え、全国的・地域的な労働問題解決のために、いかに効果的な施策を展開できるか考えますので、現場とは違ったやりがいを感じることができます。

私たちのしごと、労働行政職員の「職業」を、一緒に楽しんでいきましょう。

